金正日名言集

朝鮮・平壌

チュチェ 97（2008）

金正日名言集

朝鮮・平壌

外国文出版社

チュチェ97（2008）

目　　次

1　領袖、党、大衆

・　領袖、党、大衆は生死をともにする運命共同体である。

・　領袖は革命の最高頭脳であり、党は革命の参謀部であり、人民大衆は革命の主人であり担い手である。

・　偉大な領袖がおり、偉大な党があり、真の祖国があるとき、民族も繁栄し、個人の運命も栄誉も輝くものである。

・　領袖なき革命の勝利を考えるのは、太陽なき花を望むにひとしい。

・　領袖が偉大であれば、小さな国も偉大な時代思想の祖国として、思想の強国、政治の大国として全世界に光を放つことができる。

・　偉大な領袖、偉大な党が偉大な人民を生む。

・　民族の偉大さはその領袖の偉大さにかかっており、人民の未来はその領袖の賢明さにかかっている。

・　賢明な領袖の指導を受けることのできない大衆は、頭脳のない肉体にひとしい。

・　卓越した領袖をいただくことのできない人民は、両親のない孤児の境遇と変わるところがない。

・　偉大な政治家、偉大な総帥は、まず真の人間でなければならない。

・　指導者が確たる信念と意志をもっていなければ、人民は動揺し、人民が動揺すれば、革命を守り抜くことはできない。

・　わが民族の建国始祖は檀君（タングン）であるが、社会主義朝鮮の始祖は偉大な領袖金日成（キムイルソン）同志である。

・　党が思想的に健全であってこそ大衆も思想的に健全であり、党が思想的に病めば大衆も思想的に病むことになる。

・　党の姿は、党が育てた人民の姿にそのまま反映される。

・　基盤のない党は砂上の楼閣にひとしい。

・　地に深く根を下ろした樹木がいかなる強風にも倒れないように、党も広範な大衆のなかに深く根を下ろせば、いかなる環境にあっても微動だにしない。

・　党の不抜さの保証は、人民大衆のなかに深く根を下ろし、人民大衆と混然一体となるところにある。

・　わが党は愛と信頼の政治、仁徳政治によって人民を導き、見守る真の母なる党である。

・　革命的な組織性と規律性は労働者階級の党の生命であり、力の源である。

・　対人活動を正しく行えば、山を崩し海を埋めることもできる。

・　公式どおりには解けないのが党活動である。

・　対人活動においては万能の処方はありえない。

・　幻想をもって人に接すれば、失敗をまぬがれない。

・　活動においては上下があるが、党生活においては上下はない。

・　人民大衆はなにごとにおいても教師であり、あらゆるものの創造者である。

・　この世に全知全能の存在があるとすれば、それはほかならぬ人民大衆である。

・　個々の人間の力は限られているが、人民大衆の力は無限である。

・　人民大衆を抜きにした党や領袖はありえない。領袖も人民大衆の

ための領袖であり、党も人民大衆のための党である。

- 指導者は知恵も指導力も徳性も、人民大衆のなかで体得するものである。

- 人民大衆の自主的な意思と要求を集大成して体系化すれば、思想になり、路線と政策になるのである。

- もっとも偉大な力は人民大衆の心にある。

- 奇跡は天がもたらした偶然ではなく、人民がもたらした必然である。

- 大衆のなかに人材がある。

- 難問を解決する妙案は大衆の頭のなかにある。

- 欠点についての診断は大衆が行う。

- 大衆の目はつねに賢明なものである。

2　祖国と民族

・　祖国は単に生まれ育った国や故郷ではなく、人々の真の生があり、子々孫々の幸せが保証されるところでなければならない。

・　祖国はすべての人の真の母であり、生と幸せの懐である。

・　民族の運命は、とりもなおさず個人の運命であり、民族の生命のなかに個人の生命がある。

・　祖国と民族から遊離した人間の真の生はありえず、国と民族の運命から遊離した個人の運命もありえない。

・　民族の偉大さは、領土の広大さや歴史の悠久さにあるのではなく、その民族を導く領袖の偉大さにある。

・　自民族を愛し、祖国を擁護するのは、社会的人間の重要な属性である。

・　自分の妻子、肉親に対する愛情は、とりもなおさず祖国愛である。

・　愛国は祖国と人民に対する献身であり、挺身である。

・　祖国の一木一草を愛することから愛国心が培われ、祖国と人民のためにためらいなく命をささげる覚悟と信念が生まれるのである。

・　祖国がいかに貴いものであるかを心底から体得した人であってこそ、祖国のために青春も生命も惜しみなくささげてたたかうことができる。

・　自らのものを愛護し押し立てようとせず、それをさらに発展させるべく努力しない者は真の愛国者にはなれない。

・　祖国と人民の呼びかけには口で応えるのでなく、身を挺するべきである。まさにこれが、祖国と人民に対する愛国者の姿勢である。

・　祖国を愛さず、祖国のためにたたかわず、祖国になんの寄与もしていない者は、祖国について語ることはできず、母なる祖国の真の息子、娘とは言えない。

・　祖国のためになしたことも、残すこともない者は、一生を無為に過ごした哀れな人間である。

・　愛国者という称号は、祖国と人民が自らのりっぱな息子、娘に授ける誉れ高い称号である。

・　祖国にささげた誉れ高い生は、祖国とともに永遠に生きつづける。

・　愛国的な祖先があれば愛国的な子孫があり、革命的な先輩があれば革命的な後輩があるものである。

・　朝鮮は一つになれば生き、二分されては生きられない有機体にひとしい。

・　真の愛国は祖国統一をめざすたたかいにある。

・　祖国統一はすなわち愛国であり、祖国統一をめざす闘争は最大の愛国的闘争である。

・　民族の大団結を志向する者は愛国者となり、民族の大団結を阻害する者は売国奴となる。

・　祖国統一の夜明けを早める原動力はわれわれの知恵と意志であり、力である。

・　自主性を守る道は愛国の道である。

・　自主性は国と民族の生命であり、自主独立国家の第一の表徴である。

・　いかなる国であれ、大国の指揮棒に従うならば、そのような国は現代版植民地になりはてる。

・　事大主義と外部勢力への依存は亡国の道である。

・　他人に迎合して生き、他人の笛に踊らされるのは、いずれも哀れな政治のしもべである。

・　目前の事のみを考えて他人に依存するくせがつけば、いつになってもその依存のくびきから抜け出すことはできない。

・　よその家の金塊より自らの家の鉄塊のほうがまさる。

・　われわれの方式で生きよ、われわれの方式でたたかえ、われわれの方式で創造せよ。

3　社会主義と革命

・　社会主義は科学である。

・　社会主義運動は、自主的な新世界の創造をめざす人民大衆の偉大な運動である。

・　社会主義は人民の志向であり意志であるがゆえに、必ず勝利する。

・　社会主義は人民のものである。社会主義に対する背信は人民に対する背信である。

・　社会主義社会では金銭が基本ではなく、人間が基本であり、人間の思想が基本である。

・　社会主義思想は社会主義の生命である。

・　社会主義社会は社会主義思想によって導かれ、社会主義思想を基本的推進力として発展する社会である。

・　社会主義は思想をとらえれば勝利し、思想を逸すれば滅びるというのが、歴史によって実証された真理である。

・　社会主義の変質は思想の変質から始まり、思想戦線が瓦解すれば社会主義の戦線全体が瓦解し、ついには社会主義を崩壊させる。

・　社会主義の変質は階級的変質である。

・　社会主義の基礎はあくまでも集団主義である。

・　社会主義と資本主義との闘争は集団主義と個人主義との闘争であり、資本主義に対する社会主義の優越性は、個人主義に対する集団主義の優越性である。

・　集団主義の原理にもとづく社会主義に個人主義の原理を導入するのは、毒をあおるにひとしい。

・　社会主義が朝鮮人民の生命であるなら、チュチェ思想は朝鮮の社会主義の生命である。

・　チュチェ思想によって示された社会主義は、人間本位の社会主義、人民大衆中心の社会主義である。

・　物質生活における奇形化、精神・文化生活における貧困化、政治生活における反動化、まさにこれが現代帝国主義の反動性と腐朽性を示す資本主義社会の基本的特徴であると言える。

・　資本はいくら国際化されようと、資本以外のものにはなりえない。

・　侵略と戦争は帝国主義の代名詞である。

・　狼が羊になれないように、帝国主義の野獣的本性は決して変わるものではない。

・　元来、歴史に挑む者の臨終はあがきを伴うものである。

・　革命は人民大衆の自主的要求を実現するたたかいであり、人民大衆が自らを解放するたたかいである。

・　革命の主体は、領袖、党、大衆の統一体である。

・　革命においては領袖の問題が核心である。

・　革命の目的は、人民への愛を花開かせることである。

・　革命闘争は新しいタイプの人間を生み、新しい生活を創造する。

・　革命は闘争によって始まり、闘争によって前進し、闘争によって勝利する。

・　新しいものの誕生と勝利はつねに、陣痛を伴うものである。

・　革命途上の苦労に甘んじることのできない者は、革命に投ずるこ

とはできない。

- 革命途上での変節と投降は死であり、敵の容赦を期待するのは誤算である。

- 世代は代わっても革命を中断してはならず、闘争は続けられなければならない。

- 革命伝統は革命の歴史的根源であり、世代と世代を一つの命脈でつなぐ革命の血筋である。

- 革命伝統は革命の万年の礎であり、このうえなく貴い思想的・精神的財産である。

- 根が腐れば木が病むように、革命伝統の純潔が保たれなければ、党は病み、党が病めば革命を台無しにする。

- 革命伝統を否定するのは、革命思想と革命精神を捨てて革命闘争を放棄することであり、結局は革命を挫折に導くことになる。

4　集団と組織、闘争と団結

- 社会的集団は人間の社会的・政治的生命の母体である。

- 個人は社会的集団の一構成員になってこそ革命の主人となり、主人としての役割を果たすことができる。

- 人間にとってもっとも大切なのは生命であり、生命のうちでも肉体的生命より社会的・政治的生命がより大切であり、個人の生命より社会的集団の生命がより大切である。

- 個々人の肉体的生命には限りがあるが、自主的な社会的・政治的生命体として結ばれた人民大衆の生命は永遠である。

- 運命をともにする社会的・政治的集団内における人間関係は、完全に平等な自主的関係であると同時に、互いに献身的に助け合う同志愛の関係である。

- 規律は組織の生命である。

- 組織規律に対する強い要求は、とりもなおさず集団に対する真の愛である。

・　闘争のない発展はありえず、革新のない前進は望めない。

・　創造の過程はほかならぬ闘争の過程である。闘争なき創造はありえない。

・　闘争のあるところには生活があり、生活のあるところには情緒とロマンがなければならない。

・　闘争のなかに生活があり、生活のなかに闘争がある。

・　闘争のなかで営まれる生活は、もっとも気高く美しいものである。

・　人間にとって無意味に過ごした百日、千日よりも、革命のために身をなげうってたたかった一日のほうが貴く輝しいものである。

・　一個人の享楽のみを追求する者は、カネのために泣き、カネのために笑いもするが、革命家は集団のため、次世代のために自らをささげるたたかいに生きがいと喜び、幸福と栄誉を見出し、誇りと自負を感じるものである。

・　団結は力であり、革命勝利の鍵である。団結すれば勝利し、分裂すれば敗北する。

・　団結は勝利の前提であり、分裂は敗北の要因である。

- 団結は民族が隆盛発展する道であり、四分五裂は民族が滅びる道である。

- 核のない物質がないように、中心のない団結はありえない。

- 一心団結はわが党の革命哲学であり、革命の大本である。

- 領袖、党、大衆の一心団結は、原爆でさえも破壊できない無限大の力を生む源である。

- 帝国主義者の各個撃破戦略には、団結の戦略で対抗すべきである。

5　思想と理論

・　偉大な思想は偉大な時代を生む。

・　時代の気象には時代精神と、それを体現した人間の魂がこもっている。

・　偉大な思想は偉大な実践を生む。

・　世界を動かす力はカネや原爆ではなく、偉大な思想である。

・　革命は階級的出身によってではなく、人の思想によって行うものである。

・　正しい指導思想と理論、方法をもたない革命は、羅針盤のない船のように方向を失って彷徨するものである。

・　偉大な思想に導かれる党のみが偉大な党になりうる。

・　思想は労働者階級の党の唯一の武器であり、もっとも強力な武器である。

・　偉大な思想に導かれる人民であってこそ、偉大な歴史を創造する

誇り高い人民になりうる。

- 英知は偉人の灯火である。

- 思想がすべてを決定する。

- 思想が働けば、すべてのことが解決され、思想が眠れば、開かれた道も閉ざされてしまう。

- 車はエンジンをかけなければ走らないように、人間も思想にエンジンがかからなければ目的を遂げることはできない。

- 人間をもっとも大切にし尊重するのがチュチェの哲学思想である。

- 思想問題においては中間はありえず、労働者階級的なものと非労働者階級的なものとの境界は明白でなければならない。

- 思想分野における妥協と譲歩は変質と敗北を意味する。

- 思想生活における停滞はすなわち後退である。

- 思想の変質は党の変質を招き、革命と建設を破滅に導く。

- 思想の陣地が崩れれば、強大な経済力や軍事力も用をなさず、社会主義制度の崩壊もまぬがれない。

・　思想活動をおろそかにすれば、労して建てた塔が一朝にして崩れかねない。

・　塔を積み上げるのは骨が折れるが、崩すのはたやすい。

・　すぐれた思想があるからといって、古い思想がおのずと退くものではない。

・　古い思想の残滓は、アスファルトの隙間から草が生え出るように、学習と思想の鍛練を怠ると息を吹き返すものである。

・　溜り水に雑菌が繁殖するように、無風地帯には古い思想がはびこるものである。

・　個人主義、利己主義は革命家にとって麻薬にひとしい。

・　自分勝手な振舞いは、人々の政治的生命をむしばむ目に見えない害虫のようなものである。

・　ただ自分勝手に暮らすのは、自由ではなく放縦である。

・　事大主義は、修正主義をはじめあらゆる日和見主義思想の媒介物である。

・　敗北主義、投降主義は分派の温床である。

6　人間と生活

・　世界には人間より貴い存在はなく、人間より有力な存在もない。

・　人間に対する観点と立場は思想と理論、路線と政策の科学性と正当性を決定する基準となる。

・　自主性のためにたたかう人間以上に、尊厳のある誉れ高い人間はいない。

・　人間にとってもっとも大切なのは、社会的地位や財産といったものではなく、政治的自主性であり、自主的な人間としての尊厳である。

・　美は自主的人間にある。

・　人間は自らを知れば革命家になり、自らを知らねば奴隷になる。

・　われを頼む者は強者になり、他人を頼む者は弱者になる。

・　自分の力で生きる者は興り、他人の力で生きる者は滅びる。

・　なにごとも自分の力でやり遂げるという立場と態度をもてば、知恵も生まれ勇気も湧いてくるものである。

・　人間の価値と品格は財産や容貌、職業によってではなく、思想によって評価される。

・　人間の美は外観にあるのでなく、思想的・道徳的品格にある。

・　外観や装いは華やかでなくとも、思想的・精神的品格がりっぱな人が美しい人間である。

・　人間の高さは思想の高さである。

・　思想と志が高ければ人格も高い。

・　偉大な人格は、素朴で質素な生活のなかで輝くものである。

・　人間は謙虚であるほど、りっぱに見えるものである。

・　強い自制心をもって提起された問題を解決する人が、修養を積んだ人である。

・　大勢とすう勢に従う流行病にかかった者は、精神的障害者にひとしい。

・　他人をそしったり、ねたむ者は俗物であり、同志的団結をむしばむ魔物である。

・　真の人生は労働に始まり、労働のなかで輝くものである。

・　真の生活は、新しく進歩的で美しいものを創造する人民のたたかいのなかにある。

・　革命こそは最上の生活であると言える。

・　革命のあるところには豊かな情緒があり、情緒のあふれるところには沸き立つ生活と闘争がある。

・　不毛の地では美しい花や豊かな実りを望めないように、情緒とロマンのない生活には潤いがなく、そのような生活からは生きる喜びも感じられず、たたかう情熱も生まれない。

・　生活を楽天的に情緒豊かに送れない者は、人間の真の生きる喜びと幸せを味わうことができず、そのような者には人情味も、革命同志に対する強い愛情もありえない。

・　生活には、目につくものよりもはるかに多くのものが潜んでいる。

・　生活を見ずして人間は知りえず、生活を知らずして人間を語れない。

・　人々の生活は、いわば人情の関係である。

・　一瞬を生きるにしても、有意義な生き方をせよ。

・　後悔することなく誇らしく生き、恥じることなく美しく生きるのが、われわれの時代の真の生き方である。

・　生の始まりが美しかったなら、生の終わりも美しくなければならない。

・　文学・芸術作品は末尾が感動的であってこそ、より大きな余韻が感じられるように、人生も有終の美を飾ってこそいっそう輝くものである。

・　自国の人民と人類のために忠実に生きることは、とりもなおさず自分自身のためにもっとも忠実に生きる道である。

・　職業に誇りと愛着を感じ、革命のためにたゆみなく働くことが、とりもなおさず偉勲であり栄誉である。

・　労苦の歩みであればこそ、誇りはさらに大きい。

・　仕事を多くするということは、それだけ生きがいが大きいことを意味する。

・　力に余る仕事をやり遂げれば、誇りもそれだけ大きいものである。

・　過ぎし日を追憶できない者は、美しい明日を手中にすることができない。

・　明日がなく、今日だけ暖衣飽食する人生は堕落した人生であり、幸福ではありえない。

・　放縦を個性の自由とするなら、そのような自由は動物の生活と変わるところがない。

・　人間は一瞬を生きるにしても、英雄のように生きるべきである。

・　英雄は真の人間の典型である。

・　生きても輝き、死んでもとわに生きつづけるのが英雄である。

・　真の英雄は瞬間の偉勲のなかにあるのでなく、永遠の偉勲のなかにある。

・　与えられた生活に満足する者は新しい生活、より豊かで文化的な生活を創造することはできない。

・　美しく偉大な創造物はすべて労働の産物である。

・　創造なき活動は活動ではない。

・　創造が発見であるなら、模倣は反復である。

・　独自性がなければ、新しいものを創造することはできない。

・　創造のない叫びは雨を伴わない雷にひとしい。

・　人間のもっとも高尚な喜びは創造にある。

・　他人の創造物を待たずに自らの創造物を他人に贈れ。

・　創作品はすなわちその人の顔である。

・　創造物に塵(ちり)があれば、終生の疵(きず)として残る。

・　創造したあとで後悔せず、創造する前(まえ)に熟思熟考せよ。

・　新しいものの価値は新しい定規でのみ計れる。

・　駿馬も乗りこなせば千里馬になり、乗りこなせなければロバになる。

・　言葉はすなわち人である。

・　言語は人の心中をのぞかせもすれば、透かして見せもする「窓」と言える。

・　深慮の末の重みのある一言は軽はずみな十言、百言よりも力強く鋭く強烈な印象を与える。

・　道理と論理にかなっていれば、まことの言葉であり、そうでなければ偽りの言葉である。

・　なにげない一言に本音がある。

・　一口の広言は万事を損ね、取り返しのつかない禍を招きかねない。

・　活動では友が多く、生活では友が少ないのがよい。

・　幸福にひたっているときは幸福なるものがよく分からない。

・　人間は空腹を知ってこそ、満腹を知る。

7　革命家の品性と幹部の活動気風

・　革命家は、なんらかの義務感や誰かの強要によって革命の道を踏み出したのではなく、革命偉業の正当性を認識し、自ら革命の道に身を投じた自覚的な闘士である。

・　意識性と自覚性は革命家の本性であり、基本的姿勢である。

・　統制と要求によって従うのか、意識的に従うのかが、革命家と月給取りを識別する基準である。

・　党と革命に対しあくまで実直であることが、革命家のもっとも重要な気質である。

・　革命家という言葉を口にするのはたやすいが、革命家の任務を果たすのは難しい。

・　生来の革命家などがいないように、完成された革命家もありえない。

・　革命家が厳しい革命の嵐を突き抜けていくには、心の柱がなければならない。

・　たたかいが困難であるほど赤旗を高く掲げ、革命の歌、闘争の歌を力強くうたい前進する人が真の革命家である。

・　百回倒れれば百回立ち上がり、革命の道をあくまで進む人が真の革命家である。

・　革命家は、今日のための今日を生きるのでなく、明日のための今日を生きるべきである。明日のための今日を生きよう、これが革命家がもつべき信念であり人生観である。

・　革命家の精神は、最期の瞬間まで変わることなく清く、汚れを知らず、生気に満ちていなければならない。

・　革命家は肉体的に老いても、精神的に老いてはいけない。

・　革命家の一生でもっとも怖いのは肉体的苦痛ではなく、思想的な動揺と変質である。

・　革命家にとって原則性は生命にひとしい。

・　捨てることのできないのが革命の原則であり、とどめることのできないのが革命闘争である。

・　銃と同じく、原則において妥協があってはならない。

- 革命的原則からの一歩の譲歩と後退は、十歩、百歩の譲歩と後退をもたらす。

- 革命的原則がなく、路線と政策に一貫性がないのが、あらゆる日和見主義の特徴である。

- 敵から称賛されること、それはすでに変質を意味する。

- 革命家は豪胆でなければならない。

- 革命家は自らの活動に満足することはない。

- 革命家は平凡で質素な生活のなかに偉大なものを見出し、崇高な生を創造していくべきである。

- いかなる原則も人間への配慮を抜きにしては存在しえない。

- 大衆のために必要であり、大衆に奉仕する忠実なしもべが真の幹部である。

- 大衆に信頼され大衆に愛される幹部であってこそ、党に忠実な幹部であると言える。

- 他より多く知り、多く見、多く体験し、多く働くのが真の幹部の生き方である。

・　幹部にとって張り合いのある生活は、人民に奉仕しながら人民に愛され、信頼されて生きる生活である。

・　食事や衣服、処遇に不平をもらす者は幹部でなく、月給取りである。

・　物欲は思想的変質の第一歩となる。

・　好人物と評される幹部は、現状維持に汲々とする者である。

・　挺身と保身、これが幹部の犠牲的精神と卑劣さを判別する基準であると言える。

・　母の役目を果たすということは、要するに子どものために心を痛めるということである。

・　党活動家の合言葉は「人民に奉仕する！」であるべきである。

・　人民に忠実に奉仕し、人民に信頼され、愛される活動家が真の党活動家である。

・　人民が望むなら、石の上にも花を咲かせねばならない。

・　党の活動家が足を多く運び、睡眠も少なくして苦労すれば、それだけ人民は幸せになる。

・　人民の利益を侵害する者に寛容などありえない。

・　未来を切り開く先駆者はつねに、歴史が体験していない険しい道を踏み分けることになる。

・　自らする仕事は、十夜を明かしても疲れを感じないものである。

・　指導芸術は人間の創意性と積極性を啓発し、発揮させる妙術である。

・　革命家の第一の実力とは大衆を知り、大衆の力と知恵を引き出す能力である。

・　人の心を知らなくては人を理解したとは言えず、人を理解しなくては人を動かすことはできない。

・　命令し指示する方法では、人々の思想を動かすことはできない。

・　カネで人を動かす方法は、人間の本性に反する資本主義的方法である。

・　人の心を動かす妙術はその心にある。

・　大衆を啓発し立ち上がらせるうえで、かれらの心を打つ政治活動にまさる武器はない。

・　成果を上げる余地は組織活動にあり、力は大衆にある。

・　可能性は意図的に作り出し、その機会は主動的に熟成させるべきである。

・　勇断を下して大胆に活動を展開すれば、道も開け、無から有が生じる。

・　眠り癖がつけばしじゅう眠気が襲うように、仕事も遅らせればそれだけしじゅう遅らせることになる。

・　大衆に対する観点が確かな幹部は、上の者より下の者により気兼ねし、慎重に接するものである。

・　大衆の心理を理解せずに活動する者は、たとえその身は大衆のなかにあっても大衆とはなじめない。

・　大衆を失った党活動家は水に浮いた油にひとしい。

・　耳に快いことばかり聞くようでは、聴覚障害の党活動家になりかねない。

・　もったいぶる者は、官位について大衆に君臨したがる未熟な人間である。

・　花は香りがあってこそ蜂や蝶が集まり、幹部は人情味があってこそ人々が集まる。

・　率先垂範は大衆を教育し立ち上がらせるうえで、十言、百言にもまさる強力な感化力をもつ。

・　率先垂範は百言にもまさる威力のある政治活動である。

・　人民大衆に受け入れられない要求は、例外なしに主観主義であり、官僚主義である。

・　官僚主義はへつらいを生み、へつらいは官僚主義を助長する。

・　権勢を振い官僚主義的に振舞うのは、自ら毒をあおるにひとしい。

・　人民を信頼する人は良薬をさずかるが、人民に背を向ける者は毒薬をさずかる。

・　党活動家が独断に走れば、兵卒なき将軍となる。

・　独断と専横は奸臣を育てる温床である。

・　人間学は政治活動を行う活動家の重要な専攻課目である。

8　青年と青春時代

・　青年を愛せよ！

・　青年は国と民族の大切な花であり、社会でもっとも活力ある部隊であり、未来の主人公である。

・　情熱は青春のシンボルであり、創造と偉勲の源であり、自らの任務を重んじる強い自覚と責任感の表れである。

・　革命の世代が次世代に受け継がせるべきもっとも価値ある遺産は、精神的・道徳的遺産である。

・　ほかの事業なら、われわれの世代で成しえなくとも次世代で補えるが、次世代を育てることをおろそかにすれば、誰も補うことはできず、取り返しのつかない重大な結果を招くことになる。

・　新しい世代の精神的・道徳的品格を見れば、その国、その民族の前途が分かる。

・　「青春をりっぱに生きよう！」が青年が掲げていくべきスローガンであり、人生観である。

・　青春時代のエネルギーは、掘れば掘るほど強く湧き出る泉のよう

に、使うほどに湧き上がるものである。

・　青春時代は新しいものに敏感で、正義感に燃え、美しいものを志向する情感に富んでいる時代であり、旺盛な知識欲と探求心が沸き起こり、新しいものを発案し創造する情熱的な時代である。

・　花は散ってもまた咲くが、過ぎ去った青春時代は戻ってこない。

・　若いときに怠けて一日を逸すれば、年をとれば十日、百日かけても挽回できない。

・　青年の真の理想はたたかいのなかにあり、たたかいのなかで花咲くものである。

・　抱負と理想のない若さは青春ではない。

・　青春の誇り高き生は、創造的労働と革新的偉勲で輝かなければならない。

・　青年は、誰も考えつかない新しい問題を提起し、世人を驚嘆させる奇跡と革新を創造しながら生きてこそ、生きがいを感じるものである。

・　青年が働くところには歌と踊りがなければならず、歌と踊りがあるところに革新が起こるのである。

・　歌のない生活、歌のない青春は、香りと生気を失った花にひとしい。

9　忠　誠

・　忠誠の信念と信義を守れば忠臣となり、捨てれば奸臣となる。

・　党と領袖に対する忠実性は、義務である前に栄誉であり良心であるべきであり、信義であり実践でなければならない。

・　信念の根元から生まれた忠実性のみが、絶対的な忠実性となる。

・　真の忠実性は真心によって強化され、偽りの忠実性は変心によって霧散するものである。

・　領袖への忠実性は信念化、良心化、道徳化、生活化されなければならない。

・　愛情は施し、忠誠は尽くすものであるといわれるが、まことの愛情と忠誠こそが領袖と戦士、領袖と人民のあいだに存在する固有の倫理であると言える。

・　領袖と戦士、領袖と人民のあいだには支配と服従の関係ではなく、ただ愛と報いる信義があるだけである。

・　種はどこに根を下ろしても、太陽に向かって枝を伸ばし、花を咲

かせるものである。

- 党と革命に限りなく誠実な人、自らの本心を隠さない人が忠実な人である。

- 情勢が平穏なときに際立たなくとも、時局が厳しいときに際立つのが忠臣である。

- 引っ張ればついて来る人より、緩めてもついて来る人が堅実な人である。

- 仕事熱心な忠臣はいても、口達者な忠臣はいない。

- 動揺は変節と背信の始まりである。

- 背信と変節、これは試練と難関に屈する卑劣さであり、懐柔と誘惑に傾く動揺さであり、生死の節目に意志と志操を曲げる下劣さである。

- 自らの利害について勘定高い者は変質しかねない。

- 有利なときはこの道を進み、不利なときは別の道を進むのが背信である。

- 人民の意思を無視し、人民の力を信じないのが裏切り者の本性である。

・　奸臣は強権の前では息をひそめているが、権力が弱まると俄然、頭をもたげるものである。

・　忠臣の口は心にあり、奸臣の心は舌先にある。

・　私心をもって忠誠を語るのは、舌先三寸に過ぎない。

・　奸臣の口には蜜があり、腹には剣がある。

・　忠臣は心のうちを明かすが、奸臣は心のうちを明かさない。

・　忠臣も身近におり、奸臣も身近にいる。

・　忠臣の生は永生だが、奸臣の命は短い。

・　忠臣が多ければ国は栄え、奸臣が多ければ国は滅びる。

・　へつらいと中傷は奸臣の生存方式である。

・　真心から湧き起こるのが忠誠であるなら、うわべをつくろうのはへつらいである。

・　へつらいは罪を犯した者がなす業である。

・　私利と功名には虚偽とへつらいが伴うものである。

・　阿諛追従は苦難と試練、懐柔と誘惑にたやすく動く悪徳であり、権力に対する屈従である。

・　下からの批判が良薬であるなら、へつらいは砂糖をからめた毒薬にひとしい。

10　信念と意志、良心と信義

・　信念は人生の価値を決定づける核である。

・　人間にとって命より大切なのは信念であり、良心である。

・　信念は誇り高い生活を送る秘訣であり、革命を進める党と人民の生命である。

・　革命の主人、自分自身の主人となるためには定見と信念がなければならない。

・　信念と信義で行うのが革命であり、それによって輝くのが革命家の人生行路である。

・　火の中でも変質せず、億年の歳月が流れても変色しない不変性、まさにここに革命家の真価があり、生命があり、美しさがある。

・　自らの領袖、自らの党の偉大さに対する信念、自国民、自分自身に対する信念、これがすなわち力であり、情熱であり、革命的楽観主義の礎石であると言える。

・　革命的信念は逆境を順境に、禍を福に変える根本的礎石であり、

革命的な戦略を生む思想的保証である。

・　「死を覚悟した者にかなう者はこの世にいない」が、われわれ革命家が持すべき信念であり、心構えである。

・　人間は難関に屈すれば再起できないが、天が崩れても抜け出す穴はあるとの腹で立ち向かうならば、いかなる難関も乗り越えることができる。

・　信念なしに良心と道徳を守ることはできず、良心と道徳なしに信念を守ることはできない。

・　信念がなければ、権力に屈従するようになり、権力にへつらう者は過ちを犯すものである。

・　決心さえすればなにごともなせる、という信念は天から降ってくるのではなく、自らの力と知恵と才能を信じることから生じる。

・　知ってこそ先を見通し、革命の原理を体得してこそ、革命への必勝の信念と強い覚悟が生まれるのである。

・　人間にとって信念は、言葉ではなく実際の活動によって検証され、平穏な状況ではなく試練の時期に点検されるものである。

・　信念をもつ革命家の生は、死すとも永遠に輝くものである。

・人間は志が大きく意志が強くなければならない。

・　曲げることのできないのが革命家の意志であり、とどめることのできないのが革命家の闘争である。

・　革命家の体は鎖で縛ることはできても、その崇高な思想を縛ることはできない。

・　白玉は砕けても光を失わず、青松は雪に埋もれても青さが変わらず、竹は火に燃えても曲がらない。

・　意志の強い人間に不可能などありえない。不可能なことがあると言うなら、それは朝鮮語ではない。

・　信念と意志の強い人間は、つねに未来を愛するものである。

・　良心と信義は人間に固有な美徳であり、人々を自覚的に美しい行動へと促そうとする精神力の源である。

・　良心とは個人的な感情ではなく、社会と人民に対する道徳的責任感である。社会と人民に対する道徳的責任を感じない者は、社会的存在として人間の価値を喪失した者である。

・　人間にとって良心は心臓にひとしい。

・　この世でたやすく捨てることのできないのが人間の良心であり、たやすく得ることのできないのも人間の良心である。

・　良心は行動の鏡であり、虚偽と真実を識別する基準である。

・　良心を汚す行動をしても心安らかなままでいる者は、重病患者である。

・　良心に恥じるところがあるときは、つねに不安を感じるものである。

・　心の安定は、革命家の汚れのない良心のみによってもたらされるのである。

・　革命的良心とは、自らを絶えず修養する過程で養われる貴い心の宝である。

・　真心は、人のことを自らのことのように考えるだけでなく、人のためなら自らを犠牲にできる人にのみ生まれるものである。

・　道徳的信義は、革命家の品格を決定する基本的表徴の一つである。

・　信義によって人間の尊厳は輝き、真の人間関係が結ばれ、人間の睦まじい生活がもたらされる。

- 不変であることが革命家のもっともりっぱな美徳であるとするなら、もっとも醜悪で恥ずべきなことは背信と変節である。

- 革命の先達を敬うのは革命の要求であり、革命家が持すべき崇高な道徳的信義である。

- 革命先達の最高の代表者は領袖であり、領袖に対する忠実性は革命的信義の最高の表現である。

- 革命の先達を中傷し、その思想と業績を冒涜するのは革命を冒涜することであり、革命の敵にへつらい屈従することである。

- 道徳的偽善は搾取階級の本性であり、道徳的腐敗はブルジョア社会の必然的産物である。

11　信頼と愛、同志と同志愛

- 信頼は愛と信義を生む精神的源である。

- 情には情をもって報いるのが、人間の美徳である。

- 信頼と愛には忠誠と信義が伴わなければならない。

- 権柄にはへつらいが伴うが、信頼と愛には心が伴う。

- 信頼があってこそ愛があり、愛があってこそ同志的関係が結ばれる。

- 信頼は忠臣を生み、疑心は逆臣を生む。

- 信頼は団結を生み、不信は背信と分裂をもたらす。

- 人間は誠実で正直であってこそ信頼でき、信頼できてこそ同志として団結することができる。

- 信頼はすなわち愛である。

- 革命家が同志に与えることのできる最大の愛は信頼である。

・　信頼そのものが効果的な教育である。

・　任務を課するのは信頼の表れである。

・　信頼は人を育てる。

・　自らの心を与えてこそ、人の心を得ることができる。

・　人間愛があれば民族愛があり、民族愛があれば人類愛がある。

・　愛国も革命も人民への愛から始まる。

・　人間の自主性を実現する革命こそが、人間を完成させる最大の愛だと言える。これが愛の哲学である。

・　人民に対する最大の愛は、人民に自主意識を植えつけて思想的に目覚めさせることであり、人民に対する最大の罪悪は、人民の自主的意識を麻痺させて思想的に堕落させることである。

・　偉大な人間であってこそ、偉大な愛をもつことができる。

・　人間を愛することのできない者は、革命に身を投ずることはできない。

・　人情味は人間を限りなくいたわり愛する人々の熱い心のなかにある。

・　人情のない者は香りのない花であり、葉のない立ち木にひとしい。

・　情操がひからびて堅苦しい者は、人間を熱烈に愛することはできない。

・　愛のないところに憎悪心は生まれず、貴く思う精神のないところに犠牲的精神は生まれないものである。

・　利己的な目的から発した愛は、愛ではなく偽善である。

・　批判のなかに真の愛がある。

・　批判はすなわち愛であり、信頼である。

・　鋼鉄は火の中で鍛えられるが、人間は批判の中で鍛えられ成長するものである。

・　鉄は高熱で沸き立つ炉の中でのみ鋼鉄となり、草花は雨風にうたれ野で育ってこそ、力強く美しい花を咲かせるものである。

・　欠陥を知って心を痛めない者は、その成果を熱く受け止めることも、擁護することもできない。

・　情が通じれば志が通じ、志が通じれば同志になるものである。

・　この世に革命の同志以上に尊いものはなく、革命的同志愛で結ばれた団結の力ほど強い力はない。

・「八百金で家を買い千金で隣人を買う」ということわざがあるが、千金をもってしても買えないのが革命の同志である。

・　志と仁徳によって友を得、同志を得るのが革命家である。

・　革命家は真の同志を得たときにもっとも喜び、真の同志を失ったときにもっとも心を痛めるものである。

・　革命家は親元を離れても生きられるが、同志と離れては一瞬たりとも生きられない。

・　同志を心から愛さず誠実に接しない者は、党と革命にも忠実ではありえない。

・革命的同志愛は人間愛の絶頂であり、最高峰である。

・　千金をもっても買えないのが同志愛であり、なにものにも代えがたいのが同志の信頼である。

・　同志を愛することができなければ、同志に愛されることもない。

・　同志の世界には、私はすなわち君であり、君はすなわち私であるという信頼があり、愛と忠誠があるのみである。

・　われわれの同志愛は、団結という基盤に咲いた愛と忠誠の花である。

・　革命の同志を限りなくいたわり、愛する人だけが真の同志を得ることができ、同志の愛と慈しみのなかでとわに生きつづけることができる。

・　われわれにとって援助とは、慈善といったようなものではなく、同志愛の具体的な表現であり、革命の同志をいかに助けるかは、革命家の品格を判定する試金石、ひいては革命に対する立場と態度を検証する試金石となる。

・　われわれは、都合のよいときには兄弟となり、都合の悪いときには他人となり、得になるときには親友となり、損になるときには敵となる、といったような人間関係には憎悪を覚える。

12　思索と情熱、時間と努力

・　思索は発明の母である。

・　思索に思索を重ねさらに思索せよ！　そうすれば成功するはずである。

・　思索を怠る者は大の横着者である。

・　哲学の貧困は思索の貧困を招き、思索の貧困は創造の貧困を招く。

・　使えば使うほどよくなり、使わなければ錆びついて鈍くなるのが人間の頭である。

・　百回考えて一回選択せよ。

・　思いつきは失敗の前提である。

・　平凡なものから偉大なものを発見せよ、小さなものから大きなものを見出せ。

・　判断力が衰えれば、偏見が強くなる。

・　見る目がくもれば、標的に振れが生じる。

・　情熱は思索を伴い、思索は情熱を呼び起こし、尽きることのない創造的エネルギーを生む。

・　情熱、それは偉大な創造の源である。

・　共感がなければ心を動かすことはできず、心が動かなければ情熱は生まれない。

・　情熱なき雄弁は人々の心を動かすことはできない。

・　この世でいちばん失いやすいものは時間である。

・　時間の大切さを知る人だけが、科学の要塞を占領することができる。

・　すべての可能性を動員して時間を獲得せよ、科学知識の塔を絶えず積み上げよ！

・　広遠な未来は偉大な努力を求める。

・　才能より大切なものは情熱的な努力である。

・　この世に労せずして得られる実はなく、努力なくしてなされるこ

とはない。

・　自らが無知であることを知ったときに学ぼうという自覚が生まれ、自らの経験が古いことを知ったときに、新しいものを取り入れようと考えるようになる。

・　満足は失敗の前提である。

・　慢心は安逸と倦怠、無責任を生む。

13　政治と経済、対外関係と外交

・　政治は芸術である。

・　政治哲学は指導のコンパスである。

・　哲学の貧困は政治の貧困を生む。

・　真の政治の魅力は、客観的情勢を鋭敏にとらえ、いちはやく利用して新しい局面を打開するところにある。

・　人々がよくて国がりっぱで、政治がよくて民心がよければ、振興できるものがあるはずである。

・　すべての文明社会において、人々が求め共感する政治が民主政治である。

・　大衆の言葉を信じ、より多く聞き取るのが真の民主政治である。

・　人権はすなわち国権である。

・　愛と信頼、これは人民大衆が政治の対象から政治の主人となった社会主義社会における政治の本質をなす。

・　経済的自立によって保証されていない政治的独立というものは空論に過ぎない。

- 列車の汽笛の音は祖国の息吹であり、脈動である。

- 節約はすなわち生産である。

- 横領と浪費は双子である。

- 国と民族の自主性は国際関係において確固とした基礎であり、自主的な対外政策はもっとも正当で原則的な対外政策である。

- 対外活動は、高い政治的識見と最大の慎重さ、数多くある儀礼上の常識を必要とする複雑な政治活動である。

- 親善も自主性のために必要であり、また自主的な立場によってのみ真の親善を保持することができる。

- 外交は苦みを味わいながらも、ほほえまなければならないものである。

- 外交においても消極性は禁物である。

- 今日の外交は頭脳のたたかいである。

- 外交官は国の顔にひとしい。

- 対外活動部門の活動家は、小川のように浅い知識ではなく、湖水のように広く深い知識を身につけなければならない。

14　科学と教育

・　現代は科学と技術の時代であり、科学と技術は経済的進歩の基礎である。

・　科学技術に対する観点と態度は、とりもなおさず革命に対する観点と態度であり、科学技術を軽視するのは革命を放棄するにひとしい。

・　生産実践は科学技術発展の源であり、推進力であり、科学研究の結果を検証する最高の基準である。

・　科学的なファンタジー、現実を踏まえた想像力なしには科学の未来を描き見ることはできず、科学そのものを急速に発展させることもできない。

・　われわれの科学は人民のための科学、祖国の隆盛発展のための科学とならねばならず、科学のための科学となってはならない。

・　科学的探究の道で成功する鍵は、ひとえに燃え上がる情熱とたゆみない努力にある。

・　この世に解けない謎というものはない。

・　科学に一生をささげようとする人は、科学者になる前に熱烈な愛国者にならねばならない。

・　科学には国境はないが、朝鮮のインテリにはチュチェの社会主義祖国がある。

・　原理はそれ自体、深奥でありながらも単純かつ明白な真理である。

・　流行は一時的であり、真理は不滅である。

・　真理は覆い隠すことも、抹殺することもできない。

・　まことの真理はいかなる厳しい試練や歳月の風波にあっても、真理としてありつづける。

・　真理は簡単で分かりやすいほど、いっそう光り輝くものである。

・　教育事業は万年大計の事業である。

・　学校は祖国の未来を育むゆりかごである。

・　次世代を育成する事業を一歩たりとも緩めれば、祖国の前進は十歩遅れる。

- 朝鮮の学生は技術を知る前にまず祖国を知り、朝鮮革命を知り、朝鮮社会を知り、朝鮮人民を知るべきである。

- 教員は花や木を育む園芸師のように、祖国の未来を育む革命家である。

- 人に一つを教えるためには、十、百を知らねばならない。

- 教員の資質はすなわち教育の質であり、学生の実力であると言える。

- 学習は革命の真理を体得するための要諦であり、革命的世界観確立の第一工程である。

- 人の言葉を十覚えるよりも、はっきりとした自分の主張を一つ述べることのできる、そうした学習が大切である。

- 実力とは、精力的に絶えず学習したそのたまものである。

- 実地体験は一つの学習である。

- 書物は無言の教師であり、生活に欠かすことのできない大切な伴侶である。

- 良書は人類共通の財産である。

- 現代は頭脳のたたかいの時代であり、知識のたたかいの時代である。

- 知識はすなわち力であり、その力は社会の発展と時代の前進に伴ってますます大きくなる。

- 知識は人間の価値を輝かす宝石である。

- 才能はいかなる物質的財産よりも貴い資産である。

- 土台のもろい家が長持ちしないように、基礎的知識が脆弱であればいかにすばらしい夢であっても、とりとめのない空想に帰してしまう。

- 人はその知識に応じて、見、聞き、感じ、受け止める。

- 知識が知識を生む。

- 気概は知ってこそ生まれる。

- 有識者は活動と生活において柔軟性があり、品性も謙虚である。

- 知ったかぶりをするのは自らを欺き、自らを傷つけるような愚かな行為である。

- 博学をもって任じる人が賢明なのではなく、自分が浅学であることを痛感する人が賢明なのである。

- 言葉や文章で難解な表現を用いる人が有識者なのではなく、大衆が理解しやすい表現を用いる人が有識者なのである。

- 自画自賛の裏には必ず傲慢があり、傲慢は活動において安逸と弛緩、倦怠を生む。

- 秀才は国の宝である。

15　文学と芸術

・文学・芸術は政治の産物であり、政治の武器である。

・　政治が入りにくいところにも文学・芸術は入り込み、銃砲をもってしても獲得できないものも、文学・芸術をもって獲得することができる。

・　優れた文学・芸術作品は偉大な闘争、偉大な時代の産物である。

・　生活は人間関係のなかでのみ掘り下げて描き出すことができ、人間関係は生活のなかでのみ際立たせることができる。

・　美の基準は人民大衆の志向と要求である。

・　人民大衆がよいと言うのがよいものであり、人民大衆が美しいと言うのが美しいものである。

・　人民大衆に愛される芸術がもっとも高尚な芸術であり、真の芸術である。

・　人民大衆こそがもっとも美しく繊細かつ力強い言葉を創造し、発展させる言語の達人である。

・　真の生活のなかに文学があり、芸術がある。

・　大作の本質的特徴、基本的表徴は規模と形式の大きさにあるのではなく、思想的内容の哲学的な深みにある。

・　鋳型にはめたような図式的で類型的かつ無味乾燥な百編の文学・芸術作品よりも、社会的に有意義な問題を生きた人間の個性化された形象によって、鋭く生き生きと描き出した一編の文学・芸術作品のほうが有益であり、貴重である。

・　型にはめてつくり出されたのは作品ではなく商品であり、そういうものをつくるのは作家でなく、商品の製造業者である。

・　独創性は創作の本性である。

・　創作は心でなすものである。

・　創作的情熱は創作家の生命である。

・　哲学があり生活があれば、成功した作品となる。

・　文学は人間学である。

・　文学は言語の芸術である。

- 文学とは、芸術的形象を通して人間の運命の問題に解答を与える生活の哲学である。

- 芸術を一般化する力は、百をもって百を見せるところにあるのではなく、一をもって百を推測させるところにある。

- 形象化の力はリアリティーと哲学性にある。

- 形象化の衣をまとっていない思想は、文学を死に導くだけである。

- 主体性は民族文学の顔であり、精神である。

- 民族的自主精神のない民族文学は、魂のない肉体にひとしい。

- 類型は文学と読者を隔てる壁である。

- 模倣は図式と類型を生み、図式と類型は芸術において死を意味する。

- 作家は時代の先頭に立ち、生活を先導する旗手とならねばならない。

- 愛国者でない作家は愛国的な作品を書くことはできず、革命家でない作家は革命的な作品を書くことはできない。

- 作家は哲学者となり、生活の精力的な探求者となり、芸術言語のベテランとならねばならない。

- 真実の人間だけが真実を語り、真実の作家だけが真実の作品を書くことができる。

- 生活を誠実に体験していない作家の文学・芸術作品は、小手先の器用さは感じられても、生活を肯定する熱い心臓の搏動は感じられない。

- 生き生きとした印象深い生活のなかに哲学的なものが自然に感じられるように描くのが、作家の才幹である。

- 作家にとって現実は無尽蔵な知識の源であり、創造的才能を開花させる肥沃な土壌である。

- 革命的な一編の詩は千万挺の銃剣に代わるものである。

- 詩は高まる感情から涌き出たものであってこそ、真実味のあるものとなり、人々を感動させることができる。

- まことの詩と歌詞は例外なく人民大衆のなかにあり、彼らの具体的な生活のなかで創造されるものである。

- 人民が使う言葉にまことの詩語がある。

- 人民に愛される詩人の生は永遠である。

- 生活を通して有意義な問題を解き、思想を示すのが芸術固有の本性である。

- 人々の思想と心を動かす芸術は、世界を変革する革命闘争の強力な武器である。

- 国と民族の芸術レベルは、その国、その民族の政治と経済、思想と道徳のレベルを測る重要な尺度となる。

- 自然主義はリアリズムで偽装された反リアリズムである。

- 芸術は思想と情熱の所産である。

- 創作家、芸術家は時代と人民大衆の良心の代弁者である。

- 演劇がせりふの芸術であるなら、映画は行動の芸術である。

- 名せりふは人民の生活のなかにある。

- 意味深く、分かりやすいせりふが名せりふである。

・　俳優は画面と舞台の顔である。

・　演技の迫真さが俳優の生命である。

・　俳優の演技はつねに創造的であって、作品ごとに異なり、舞台ごとに斬新なものでなければならない。

・　演出は創造の芸術であり、指導の芸術である。

・　カメラマンの目はすなわち画面であり、画面はすなわち現実である。

・　音楽は旋律の芸術である。

・　労働があるところに歌があり、歌があるところに生活のロマンがある。

・　生活のあるところには音楽と歌があるものである。

・　人間の生活に音楽がなければ、それは花のない花壇にひとしい。

・　革命的な歌は闘争の隊伍に高く響き渡る進軍歌であり、時代の行進曲である。

・　歌詞は巧みさをきわめた一編の詩でなければならない。

・　聴けば聴くほどすばらしく印象的な歌、人民が好んでうたう歌が名曲である。

・　名曲とは聴くほどにすばらしく、心に刻むほどに意味深く、口ずさむほどにうたいたくなる歌である。

・　人民に愛唱される歌であってこそ名曲である。

・　時代の名曲は、時代の息吹が脈打つ現実からしか生まれない。

・　世界の名曲がいかにすばらしいものであっても、朝鮮人民の思想・感情を表現した朝鮮の歌に取って代わることはできない。

・　国が興れば、歌声は高まるものである。

・　歌劇は歌の芸術であり、行動の芸術であり、生活の芸術である。

・　生活を反映させたリアリティーと造形的なリアリティーは、リアリズム美術の生命である。

・　花の美しさを知らぬ者は花を愛することができず、花を美しく描くこともできない。祖国の山河への熱愛なしに描いた絵は、人の心を打つことはできない。

・　一幅の絵が時によっては、百言にも増して人々の心を強く打つことがある。

・　美術は歴史にモニュメントを残す。

・　建築は総合芸術である。

・　人民大衆はもっとも賢明な評論家である。

・　現実は厳格な審判者である。

16　出版・報道、スポーツと保健・医療

・　革命的な出版物は人々を革命の道に導く無言の教師であり、生活の教科書である。

・　新聞、放送、通信は革命闘争の強力な武器である。

・　タイムリーとタイミングは出版・報道の生命である。

・　新聞は無言の宣伝員、煽動員である。

・　新聞は読者の要望と志向を盛り込むべきであり、大衆にとって親しい教育者、啓蒙者となり、案内者とならねばならない。

・　われわれの新聞は、人民大衆に奉仕する人民の新聞である。

・　社説は新聞の旗じるしにひとしい。

・　党機関紙の社説は党の指示文書である。

・　名を変えたに過ぎない文章は、自らの顔をもたない文章である。

・　人の笛に踊らされるような文章を書いては、人々を腑抜けにしてしまう。

・　人の先頭に立って歩むところに、記者の誇りがある。

- 新しいニュースを知らせるのがマス・メディアの基本的使命である。

- 通信は世論を煽動する先導者である。

- 放送は国の声である。

- 放送は政治の重要な手段であり、強力な大衆宣伝手段である。

- 健康は革命家の資本と言える。

- 壮健な体力は青春の気迫と活力の源であり、創造的労働と英雄的闘争を保証するものである。

- 国の柱として育つ青少年の強健な体力こそが国の力である。

- ピアノが音楽の基礎であるなら、陸上はスポーツの基礎である。

- 人民への医療奉仕は単なる実務的活動ではなく、重要な政治活動である。

- 人間愛をもった医師に不治の病はない。

- 医師の真心が妙薬である。

17　軍隊と戦法

・　人民軍は革命の大学である。

・　軍隊は単なる戦闘のための集団ではなく、思想的・精神的・肉体的鍛練にふさわしい学校である。

・　軍隊は規律であり、規律は軍隊である。

・　人民軍の銃剣に平和があり、社会主義の勝利がある。

・　銃が戦闘をするのではなく、人間が戦闘をするのである。

・　階級的自覚､革命的覚悟もなく盲目的に握る銃は棒切れにも劣る。

・　平和的な雰囲気にひたれば「まさか」病に冒され、そうなればいつかは大事を損なうことになる。

・　哨兵はすなわち祖国の眼である。

・　銃は革命家の永遠の道づれであり、同志である。

・　兵士の良心を知りたければ、その武器を見よ。

・　愛国心のない兵士には武器の大切さが分からない。

・　戦争の運命を担う軍人にとって、訓練は生きがいであり、栄誉である。

・　「一当百」の鍵は訓練を強化することにある。

・　軍事訓練での形式主義、要領主義は自分自身に対する欺瞞であり、死を意味する。

・　軍人の真の生活は訓練に始まり、玉の汗を流す練兵場で花と咲き、誇りのある軍隊での服務の日々と、銃弾と爆弾が飛び交う戦場で輝くものである。

・　射撃は科学である。

・　軍人が備えるべき風格で基本となるのは、百発百中の射撃術である。

・　武器を手にした兵士はつねに、敵の心臓を撃ち抜かねばならない。

・　兵士にとって足は翼である。

・　敵の攻撃企図を事前に破綻させるのは積極的な防御となる。

・　現代戦において、戦闘は指揮官のたたかいであり、指揮官のたたかいはすなわち、頭脳のたたかいである。

・　敵は、武器に頼る前にまず、知恵をもって倒すべきである。

・　科学的な判断力と推理力、豊かな想像力がなくては、大胆な作戦は展開できず、大胆な作戦なくしては、敵を倒すことはできない。

・　おのれを知り、敵を知れば百戦百勝するが、おのれを知らず、敵を知らねば百戦百敗する。

・　将帥の知略は、人民大衆の愛国心と結びついてのみ、国のためのたたかいで効を奏することができる。

・　将兵一致、軍民一致が、われわれの革命軍隊の誇りある伝統、気高い品格であり、いかなる侵略軍にもない不敗の力の源である。